

## 被爆動員学徒慰霊慈母観音像

〔地図番号51〕

## 建立年月日

1966（昭和41）年7月31日

## 建立者

当時の市内21校旧制中学校・女学校生徒遺族有志

## 制作者

砂原放光

## 形状

高さ2mの青銅の観音像が、何段にも積まれた築山に立っている。



## 建立の目的

原爆被爆動員学徒の無残な犠牲に対し、その霊を慰めるため。

## 碑文

「観音となりて平和を守りゆく少年学徒らのみたま尊し 山本康夫」  
 「慈母観音に抱かれ眠る汝が姿心にえがきてわれら安らぐ 益田礼助」

## 特記事項

## 1 旧制中学校・女学校の碑

この碑は、広島市内の旧制中学校・女学校21校の生徒の慰霊碑です。それら学校の生徒約4,000人の名前がネームプレートに刻まれ築山に納められています。

## 2 新教育制度6・3・3制と旧制中学校・女学校

1947（昭和22）年、教育の機会均等をめざして学制が変わり、6年制の小学校、3年制の中学・高等学校が確立しました。小学校とともに新制中学校（修業年限3年）が義務教育、男女共学となりました。

新制度になるまでは、国民学校（小学校）6年の義務教育を終えると、そのほとんどが国民学校高等科（2年限）に進むか、中学校（男子5年限）、女学校（女子4年または5年限）に進みました。

## 3 学徒勤労令

1944（昭和19）年8月、学徒勤労令が発せられ、旧制中学校・女学校以上の学生、生徒に対して軍需産業部での勤労奉仕が強制されました。

さらに同年11月、空襲による火災の拡大を防ぐ目的から消防道路、防空小空地を造ることになり、広島市内では133ヶ所の建物疎開作業の後片づけに国民学校高等科、中学校、女学校の生徒8,200人以上が出動し、被爆により約6,300人が亡くなりました。